

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	◎	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・時短営業要請が解除されたこともあり、飲食店向けの販売量が大幅に伸びている。
	◎	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	お客様の様子	・3か月前の8月は、豪雨被害や新型コロナウイルスの感染拡大で厳しい状態が続いていたが、数値としては前年同水準であった。それに対し、11月は中核となるテナントが改装に伴う休業をしており、現時点でおよそ9割と売上は厳しい。一方で、10月以降の制限緩和により、行政主導イベントが開催され、消費者心理としても購買意欲が高まっている。改装休業していた中核となるテナントも開店し、全館的にも来客数が多く、にぎわいが戻っている。
	◎	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当県では新型コロナウイルスの新規感染者数も激減したため、緊急事態宣言も解除となり、客の来店もかなり多くなっている。新型コロナウイルス感染が拡大する前の状態に近づいている。
	◎	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・新規感染者数の減少により、外食する客は増加しており、販売量も増加している。しかし、新型コロナウイルス発生前の水準からは8～9割の水準で推移している。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と秋の旅行時期が重なって来客数が増え、地区内で最近全くみることがなかった観光バスを見掛けるようになっている。
	◎	観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・シティホテルの客室稼働率が右肩上がりでも上昇しており、11月の平均稼働率は60%超の見通しになり、今期最高が予測される。ホテル内のレストランも週末は満席状態で、予約を断る状態である。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊とレストラン需要は新型コロナウイルス発生前の勢いを取り戻しつつある。
	◎	タクシー運転手	来客数の動き	・新規感染者数の激減により昼夜を問わず人流が、コロナ禍前と変わらないほど回復している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・緊急事態宣言の解除により、人流が増え、来客数も増えている。客の心情も変化し、安心して来店しているようであるが、売上にはつながっていない。
	○	商店街（代表者）	単価の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、安心感から商店街にも客が戻ってきている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の全国的な減少で、商店街にも活気が戻りつつある。来客数も通常時の7割程度まで回復している。
	○	商店街（代表者）	単価の動き	・緊急事態宣言が解除され、キャンペーンや新規事業が増えている。そのため、印刷や印鑑等の売上が増えている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が拡大していた8～9月よりも若干状況は良くなっているが、商店街への来街来客数は非常に少なく、まだまだ厳しい状況である。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・夏場は地元以外の野菜が中心で、単価が高く、暑さによって消費量が少なかったが、現在は地元の野菜が入荷し、単価も安くなっている。商売はしやすい状況である。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・数か月前と比較すると、少し良くなっているが、緊急事態宣言が解除されてもなかなか客足が伸びず、期待していたほどの回復ではない。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・年末にかけて、例年どおり正月の縁起物を購入する客が多くなっている。
○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・買物自体を控えていた客や、最低限に抑えていた客が反動で購入している。	

○	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数がない状態が継続しており、来客数が増加傾向にある。気温の低下もあり、防寒衣料や寝具といった冬物商材に対して今まで以上の反応がある。外商客を対象とした家具や宝石等のイベントも前年度の売上を大幅に超え、好調に推移している。
○	百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・当市内の大型店4店の8月売上高は、前年比で93.3%であるのに対し、11月の売上高は、前年比で96%を見込んでいいる。また、3か月前との前々年比では5.5%の改善がみられる。ダイレクトメール催事の動因も良くなり、婦人服は前年から2けたの伸びを示している。飲食は依然として苦戦している。
○	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ダイレクトメールの抑制を継続しているが、新規感染者数の減少や、物産催事再開効果により、平日や週末共に来客数が増加している。午前重視の来店傾向は継続しており、午後の店頭の来客数や滞留時間は回復傾向にある。感染対策の会場分散、通路拡張で多少の混乱はあるものの、多くの客が来店し、全店への波及効果は大きい。県内旅行やオンライン受注、サテライトショップやギフトショップは好調な販売が継続しているが、外出自粛は続いている。
○	スーパー（店長）	販売量の動き	・全体的に数値は回復傾向にあり、特に衣料品関連の動向が上向きになっている。要因として、新型コロナウイルス感染率の低下により、客の行動範囲が拡大している。
○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・食品物産展や衣料品特売等、イベント集客力が上がっている。これまで抑えられていた購買意欲が一気に放出されている。
○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新規感染者数も大幅に減少し、来店客の利用状況も変化している。今まで取り扱っていなかった野菜や果物、冷凍肉等を大幅に品ぞろえしたところ、主婦層の客が増加している。中食も増加しているが、スーパーマーケット感覚で生鮮食品の売上も大幅に増加している。今後もこの傾向が進んでいく。
○	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除されて以降、企業のテレワーク比率が低下し、会社に出社する人が若干増加している。
○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、様々な活動制限が緩和されたことで、外出する人が明らかに増えている。
○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・人流は、行動制限があるものの戻りつつある。通勤通学での買物利用は増加しており、おにぎりや菓子パン、ファーストフードの販売が新型コロナウイルス発生前の売上に戻っている。在宅需要の商品は緊急事態宣言の発出時より減少するが、イベントの開催により移動中に消費するドリンク等の売上は伸びている。
○	コンビニ（店長）	お客様の様子	・前年のGo To Travelキャンペーンの効果ほど回復はできていないが、ホテル集客が増えており、特に家族連れの外出が目立っている。
○	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、また、自治体からの補助もあったことで、11月の来客数が多少増え、売上も少しずつ増加している。
○	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・新規感染者数が減少したため、食事会や旅行用の洋服を求めて、来店する客が増えている。
○	衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・3か月前と比較すると、来店客の購買意欲が高まっている。
○	家電量販店（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が急激に収束している影響もあるが、来客数が確実に回復している。
○	家電量販店（従業員）	来客数の動き	・レジ通過来客数は前年比103%である。前年は日曜日からの始まりのため、これを考慮すると約106%に相当する。
○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・メーカーからの新車の供給量が3か月前よりも増えている。まだまだ平年並みのレベルではないが、最悪の状態は脱している。今月の経常利益は黒字を確保できる。

○	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いており、緊急事態宣言も解除されたため、人の動きが良くなっている。
○	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・全国的に新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、当県は新規感染者数がない日が続いている。旅行者や地元客も来店が増加し、少しずつ店はにぎわってきている。
○	スナック (経営者)	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除となり、夜の街に人が戻っている。解除直後はにぎわいをみせたものの、2週間ほどでそれも落ち着き、客足は減っている。
○	旅行代理店 (職員)	販売量の動き	・3か月前の緊急事態宣言の発出時と比較して販売量は増加したが、新型コロナウイルス発生前の水準には戻っていない。
○	タクシー運転手	それ以外	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減し、人の動きが増え、売上は新型コロナウイルス発生前の7割ほどまで回復している。
○	通信会社 (企画担当)	販売量の動き	・光回線の提供エリア拡大により販売量が増加している。
○	ゴルフ場 (従業員)	お客様の様子	・ゴルフ関連商品の購入や、飲食の品数が増えている。
○	競馬場 (職員)	来客数の動き	・経済活動が少しずつ再開している。
○	美容室 (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で売上は低迷しているが、新規感染者数が減少し、少しずつ景気は良くなっている。
○	美容室 (店長)	来客数の動き	・3か月前の売上は非常に悪かったが、今月の来客数や売上はやや増加している。
○	その他サービスの動向を把握できる者 [介護サービス] (管理担当)	お客様の様子	・今後の季節要因によるサービス中止は考えられるが、新型コロナウイルス新規感染者数の大幅な減少と、3回目のワクチン接種の計画報道が安心感につながっており、前年と比較すると利用者数が大きく増加傾向にある。
○	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・分譲住宅の住宅ローン控除期間13年が11月末までという契約条件もあり、分譲住宅の販売数が伸びている。
○	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・緊急事態宣言が解除となり、街中の人通りも増加し、夜の飲食店も営業を再開し、集客をしている。3か月前と比較すると、商店街の人通りが増え、景気は良くなっている。
□	商店街 (代表者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いてきたが、必要な食品だけを購入する状況が続いている。
□	商店街 (代表者)	来客数の動き	・来客数の前年比が、数か月間減少が続いており、景気は一向に良くならない。
□	商店街 (代表者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているものの、まだ高齢者は近隣のスーパーマーケット等で買物をしており、商店街にはなかなか足を運んでいない。
□	一般小売店 [茶] (販売・事務)	販売量の動き	・新型コロナウイルスも終息しつつあり、日々気温も低下しているため、売上は増加するはずだが、外販での売上は緊急事態宣言中と変わらない。事務所でのお茶出しがないこと、在宅ワークが継続されていることが原因である。現状はとても厳しい。
□	百貨店 (業務担当)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が小康状態を保っており、売上の増加に期待していたが、それほど増加していない。前年はGo To Travelキャンペーン等の各施策が盛り上がっていたが、今年は、外出自粛や買物を控える状況が当たり前になっている。
□	スーパー (店長)	単価の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数激減で人流が多くなり、飲食業やサービス業での消費が増えている。しかし、問題は物価上昇により、買い控えが出ており、生活防衛意識の高まりを実感している。

□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・緊急事態宣言解除後、都市部は売上が戻っており、前年の巣籠り消費で大きく伸びた郊外の売上が落ち込んでいますが、全体では落ち着いている。少しずつ寒さが本格化しており、鍋物商材等の季節商材が伸びている。
□	スーパー（統括者）	単価の動き	・前年が苦戦していたこともあるが、今年の11月の点数は横ばいであるものの、1品単価の増加による客単価の増加もあり、売上は前年と比較して良い。部門ではインスタペーカリーや総菜が好調である。
□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・緊急事態宣言は解除されたものの、客の動きの回復は鈍く、来客数の減少が解消されてない。客単価の上昇により、売上としては前年水準並みには保たれているが、期待値には程遠い。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が落ち着くにつれ、夕方の来客数及び客単価が減少傾向にある。家飲み需要の低下が一因である。
□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減っているが、まだ消費動向には反映されていない。
□	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・客の回避性は余り変化がないが、8月と比較すると冬物衣類の値段は高いため、1点当たりの客単価が上がっており、売上は増加している。しかし、景気が良くなっているわけではない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・生産状況が悪く、受注しても納期に時間が掛かるため、すぐに成約することができない状況である。
□	乗用車販売店（代表）	それ以外	・コロナ禍の影響により、景気は悪くなっている。
□	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・都市部でのキャンペーンでは、来客数は少ないものの成約率は上昇しており、売上は前年並みである。店舗での売上は、月前半は好調であったが、後半は減少している。
□	その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	お客様の様子	・前年比と比較すると、来客数に変化がない。
□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は新型コロナウイルスの新規感染者が出ておらず、少しずつ予約が入り、1～2か月前と比較すると、景気は良くなっている。ただ、前々年と比較するとまだまだ追いついていない。新型コロナウイルスの感染が収束していくにつれ、予約数が増えていくことを実感している。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・3か月前と比較しても変化がなく、自粛が長期間にわたったため、美容業界の動きが非常に悪くなっている。年末の販売量と客の動きに期待している。
□	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	お客様の様子	・派遣している従業員の雇用止め等があり、周りの景気は良くなっていない。
▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が極端に落ち着いており、これまでの巣籠り需要の反動で来客数が減少し、売上が前年比減少となっている。
▲	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・緊急事態宣言が解除され、夕方から夜にかけての来客数や売上が若干減少している。
▲	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・11月は自動車業界の動きは鈍い。
▲	通信会社（統括者）	販売量の動き	・11月の携帯電話の販売台数見込みは、前年同時期を下回る予想であり、計画値に対しても下回る見込みである。商業施設でのイベントや店舗のスマートフォン教室開催等により来客数の増加を促しているが、前年を下回る見込みである。
▲	設計事務所（代表）	来客数の動き	・来場者数が減少している。
×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・大型家電も小型の商品も余り売れておらず、かなり売上は悪い状況が続いている。
×	設計事務所（所長）	単価の動き	・木材や鉄製品等の材料費や人件費の上昇が続いており、同時に生活必需品の値上げも相次いでいる。それに対して、売上の収入は上がっていない。

企業 動向 関連 (九州)	◎	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したことで、経済が回り始めている。急に物量が増えている荷主もある。しかし、反動で爆発的に売れているわけではなく、コロナ禍で家計に与えた痛手は大きい。
	◎	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・今月は、新型コロナウイルスの感染がほぼ落ち着き、人の動きや交通量が1～2か月前と比べると非常に良くなっており、経済的には景気は戻ってきている印象を受ける。
	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9～10月は厳しい状況が続いたが、11月に入り、新規感染者数の減少もあり、外食が少しずつ戻っているものの、2年前の繁忙期には届いていない。大手加工メーカー向けも年末年始用の生産を始めたことにより、注文が増加しており、在庫も夏に比べると20%減っている。しかし、量販店に今までのような勢いがなくなっている。
	○	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・繁忙期のため、製造、販売共に上向きになっている。
	○	金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・引き合いや受注共に良くなっているが、材料費の高騰や納期が間に合わない事態が発生しており、発注及び納期が延期状態である。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体の動きが良くなるにつれて、製造業も少しずつ動き始めている。今後、景気は上向きになる。
	○	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連企業からの受注が増加している。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・新型コロナウイルス終息の雰囲気が出ており、出張等も増加している。
	○	その他製造業 〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・生産量が増加し、更に増産傾向にある。今のところ、価格も安定している。
	○	通信業（経理担当）	取引先の様子	一時的な動向である可能性はあるものの、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にある。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・スーパーマーケットやコンビニエンスストア、百貨店の売上は持ち直しており、自動車販売は生産面の制約から伸び悩んでいるものの、家電販売も持ち直してきている。また、旅行業やホテル、旅館、飲食店等は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したため、厳しい状況は続きながらもやや改善している。
	○	金融業（営業）	取引先の様子	・水準は高くはないが、良くなっている。新型コロナウイルスの感染が落ち着いていることが最大の要因である。製造業から小売サービス業まで全体として良化している。
	○	金融業（営業担当）	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除と新規感染者数の大幅な減少により、人流や消費動向は良くなっている。しかし、中小企業は忘年会等を自粛しており、状態は良くなりつつも、経営者の心情としては前向きな気持ちではない。
	○	金融業（調査担当）	取引先の様子	・自動車の生産台数が減少しており、関連する部品メーカーは資金繰り等の負担が大きくなっている。一方、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、国内では落ち着きが見え、人の流れが活発になっている。そのため、飲食や観光、輸送ビジネス等人流に依存する業界では回復がみられる。総合的には3か月前よりも良くなっている。
	○	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・施設の新装開店、新施設の開店等の広告の動きがある。
	○	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・飲食店の来客数が増加し、業務卸への注文が以前より倍増している。倉庫内の在庫も増えている。
	○	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先の売上や受注状況によると、好調な企業が増えている。
	○	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	取引先の様子	・緊急事態宣言の解除から1か月が経過し、徐々に商談も増加しつつある。

	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置産業で受注が増加傾向にある。一方、自動車産業は受注量が減少傾向であるため、全体としてはそれほど変化はない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・多くの注文を受けているが、原材料や資材の品薄、高騰の影響が徐々に大きくなっている。
	□	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年末に向けて輸送商品の取扱は微増であるが、食料品を中心に新型コロナウイルス発生前の水準にはまだまだ到達していない。同業者の話でも、半導体不足により家電を中心に在庫が減少しており、企業によっては新しい事業を立ち上げ、収益確保を実施している。
	□	輸送業（従業員）	取引先の様子	・健康食品や化粧品とも横ばいである。特に変化はなく順調である。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、飲食店の忘年会や新年会の予約は徐々に増加しつつあるものの、少人数で短時間が主流であり、新型コロナウイルス発生前の大規模開催の動きはほとんどない。原油価格の高騰は、物流や運輸業界、また、ボイラーで大量の重油を使用するハウス農家にとっても、今後の大きな不安材料となっている。
	□	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・緊急事態宣言が9月末で解除されたことにより、少しずつ受注量が戻りつつあるものの、3か月前と比較すると現状では変わっていない。
	□	広告代理店（役員）	受注量や販売量の動き	・売上傾向が低位で安定しており、現状打開のために様々な仕掛けを試みてはいるが、採用されない。
	□	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・同業者間の情報交換によると、目立った動きがない状態である。
	▲	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・例年、官公庁の新年度に向けた繰越し工事の発注がある時期であるが、工事情報が全くなく、特に公共工事の予算は厳しい。加えて、民間工事も見積依頼が全くない状況である。新型コロナウイルスの予算だけではなく、公共工事にも補正予算確保を望んでいる。
	▲	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村が発注する調査や計画策定支援の委託業務で、企画提案方式で委託業者を決める場合があるが、他社の提案では仕様書にない他の業務も抱き合わせで行うことを提案することが多く、市町村は経費削減のためにそれらの提案を採用する傾向があり、仕様書に沿った提案では受注が困難な状況にある。
	×	繊維工業（営業担当）	それ以外	・賃金が上がった分、工賃が上がらなければ採算が取れないが、上げることができず深刻である。政府の意図どおりならず、やはり下請が苦しむ状況にあり、この賃金の上がり方では、あと何年もつか危惧される。
雇用 関連 (九州)	◎	*	*	*
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・緊急事態宣言の解除でイベントやパーティー司会の依頼も増えている。また、新型コロナウイルスの影響で、人員削減をしたことによる取引先の人手不足の派遣依頼が増えている。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・各業種から求人に対する問合せが増えている。派遣にとどまらず、直接雇用を前提とした人材紹介や紹介予定である派遣の問合せも入っている。社員欠員の不補充枠に派遣を登用する機会が少し戻りつつある。
	○	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人に対する問合せや応募数が2割程度増えている。派遣社員だけでなく、直接雇用希望者の問合せも多い。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・緊急事態宣言解除後の動きが期待したほどではなく、まだ慎重である。
	○	新聞社 [求人広告]（社員）	周辺企業の様子	・緊急事態宣言も解除され、広告出稿量の景気は上向いている。人が動くようになることでイベントの再開もあり、関連の新聞広告が復活している。全般的には回復しているが、旅行広告については、Go Toキャンペーンの再開を待つ動きもあり、若干動きは鈍いが、需要の先送りであり、回復基調であることは間違いない。ただし、求人広告については、力強さがない。

○	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いており、人出が回復している。飲食店も大人数での宴会はないものの、個人、家族客でにぎわっている。新聞に折り込まれる広告の枚数も増えている。
○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・有効求人数や新規求人数共に前年比で増加が続いている。また、有効求人倍率も前年比を上回る月が続いている。
○	民間職業紹介機関 (職員)	求人数の動き	・新型コロナウイルスも一旦落ち着き、前年と比較すると採用継続中の企業が多く、業種に偏りはあるものの、求人数は増えている。ただ、4年制大学や大学院では求人数は増加しているが、資格系の職種を除くと、短大の求人数は全体的に厳しいため、全てが良くなっているわけではない。
□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・雇用調整助成金でやっと経営を維持することができている。現在、新型コロナウイルスの感染状況が一旦落ち着いているが、いつ再び感染拡大するのか予測が付かないため、客は慎重に様子を見ている状況である。
□	学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・内定状況は、前年と比較して若干良くなっているが、現在も就職活動を継続している学生が一定数いる。ただ、求人依頼件数も一定数あり、年間を通じた採用活動を行う企業も前年度と比較して増えている。また、2023年卒採用に向けたインターンシップを実施する企業も前年度と比較して増加している。
▲	新聞社 [求人広告] (担当者)	それ以外	・飲食店の来客数や旅行者も増えているが、21時以降の公共交通機関の本数が削減していることで、夜は人の帰宅が早まっている。飲食店も22時以降は閑散としている。
×	—	—	—